

# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



# 眠れる預言者

退行催眠（前世療法）によつて前世を知ることで、現在抱えている悩みや苦しみの原因が明らかになり、その解消につながるということを先月号で紹介しました。

今回は前世療法の本家本元とも言える人物、エドガー・ケイシーを紹介します。

エドガー・ケイシーはケンタッキー州の貧しい農家に生まれました。21歳の時に喉頭炎になつて声が出なくなりました。その時にレインという催眠術師に催眠術をかけてもらい、喉頭炎が治りました。それから不思議なことが起きました。ケイシーが催眠状態に入つ



て い る 時 に 病 人 の こ と を 聞 か れ る と 、 そ の 病 人 の 肉 体  
の 状 況 を 透 視 し 、 そ の 原 因 と 治 療 法 を 明 ら か に す る こ  
と が 従 る よ う に な つ た の で す 。 人 は い つ し か ケイシ  
ー の こ と を 「 眠 れ る 預 言 者 」 と 呼 ぶ よ う に な り ま し た 。  
こ の 肉 体 を 透 視 す る こ と を フ ィ ジ カ ル ・ リ ー デ イ ン グ  
と 言 い ま す 。

### 一 つ 有 名 な 話 を 紹 介 し ま す 。

アラバマ 州 セルマ の あ る 少 女 が 精 神 錯 亂 状 態 に な り 、  
精 神 病 院 に 入 れ ら れ ま し た 。 ど う に か し て 治 し た い と  
思 つ た 両 親 が ケイシ ー の ど こ に に 相 談 に 来 ま し た 。 ケ  
イシ ー は い つ も の よ う に 横 に な つ て 催 眠 状 態 に 入 り ま  
し た 。 両 親 が 少 女 の 名 前 を 言 つ て 「 精 神 の 状 態 が お か  
し い で す 」 と 相 談 す る と 、 ケイシ ー は 透 視 を し て 「 こ  
の 女 の 子 の 歯 茎 に 親 知 ら ず が 一 本 食 い 込 ん で いる 。 そ



れが脳神経を侵している。この歯を抜けば、この子はすぐに正常に戻る」と言いました。その後、歯を抜くとすぐに少女は正常な状態に戻つたということです。

また遠隔透視もできたといいます。ケイシーは国内はもちろん、アメリカにいながら、国外にいる人のことも透視で見たそうです。例えば対象が私だったとすると、「鈴木さん、今日そちらは風が強いですね」とか、「あなたの横には誰々がいて、あなたの病いが治ることを祈っていますね」などと言ひ当てたといいます。それによつてケイシーの透視の真実性が増したとすることです。

このようなケイシーの透視能力が次第に知られるようになると、金儲けに利用しようという者が現れました。ある時、「競馬の勝馬を教えてくれ」と依頼



する人がいました。これは成功もするけれど、失敗もするという結果でした。普通の予想屋と変わらない程度でした。そういう時は催眠状態から目覚めた時にとても疲れていたそうです。エネルギーを消耗して、とても不快感が残ったそうです。

また「テキサスで石油事業をやらないか」という話もありました。「油田のありかを透視してくれ」というのです。これは全く良い結果を得られませんでした。結果的にケイシーはこういう透視をすると、不確かであると同時に、すぐ疲れることがわかりました。自分の能力は人を助ける時にだけ、確実に信頼するに足る。金儲けを目的とした時には力を發揮しない」と実感したといいます。



## 【前世の発見】

ケイシーが初めてライフ・リーディング（前世透視）を行ったのは、全くの偶然によるものでした。依頼者のホロスコープ（個人の誕生時の天体配置図で占星術のもとになるもの）を読みとるための透視を行つていたときに、その状況に遭遇したのです。1923年11月11日、ケイシーの故郷であるオハイオ州、デイトンで、それは行われました。依頼者は、地元の実業家、アーサー・ラマーズという人物でした。ラマーズはリーディングの最中に「自分は前世で僧侶であった」と語りだしました。ラマーズの依頼したホロスコープの透視とはかけはなれたものでした。

この時、最も驚いたのはほかならぬケイシー自身でした。というのも、彼は輪廻転生を認めない敬虔なキ



リスト教徒(キリスト) きようどだったからです。キリスト教(キリスト) きようでは、人は死(死) しび後(ご)、神(かみ)の最後(さいご)の審判(しんばん)を待つのみで、生まれ変わることはないとされているのです。

しかしその後(ご)、ケイシーが聖書(せいしょ)を詳しく調べたところ、かつては「人間は生まれ変わる」と記(しる)されていましたが判明(はんめい)しました。それが、ある宗教会議(しゅうきょうかいぎ)において聖書(せいしょ)が改訂(かいてい)され、その記述(きじゆつ)が削除(さくじよ)されたそうです。その理由は、神への信仰心を強めるためだったそうです。ケイシーはこの後(あと)、一気に生まれ変わりを信じ、積極(せつきよく)的にライフ・リーディング(前世透視)を行うようになっています。

ケイシーは自らの前世(せんせ)を透視した際(さい)、古代ペルシャ時代(じだい)に「ユートル」という部族の族長であったことを知りました。その時の彼は有能な靈能者(ゆうのうれいのうしゃ)であり、複数(ふくすう)



の病院を建てるなどの活動を行つていたといいます。その時の人格が現在の彼に強く影響を与えていたことがわかりました。

### 【死後の世界の存在】

自分自身の前世を見たケイシーですが、それでも彼は、魂が死んだあとも本当に存続するのかを確かめてみたないと考えて、ある日、ウエスタン・ユニオン電話局を経営する実業家であり友人でもあるM・B・ワイリックにこう語りました。

「どちらか先に死んだ方が、あの世から必ず連絡を取るようになります」

ケイシーにとつては冗談半分の提案でしたが、その後、ワイリックが先に亡くなりました。



そんなことも、すっかり忘れてしまつたある日、ケイシーは自宅の居間でラジオを聞いていました。すると、何となく部屋の中に誰かがいるような感じがしました。ふとラジオに目をやると、ラジオの前に男が座っているように見えました。その男は数年前に死んだ友人のワイリックだったのです。ワイリックは微笑みながら、「人格はやはり続くんだよ」と言いました。ケイシーはしばらくの間、椅子に座つたまま動けなくなりましたが、やつとのことで椅子から立ち上がり、ラジオを消して逃げるように妻のいる2階のベッドルームへ行きました。ケイシーの妻が「ラジオを消してこなかつたの?」と言いました。それでケイシーは、今も階下から聞こえてくるワイリックの声が妻にも聞こえているのだとわかりました。自分がけの幻覚や幻



「これでわかつただろう。死後の世界はあるんだよ」  
「これでわかつただろう。死後の世界はあるんだよ」  
「この出来事を通じて、ケイシーは死後も人間の魂が  
存在し続けることを確信したといいます。

シーエーに告げました。

【ライフ・リーディングの事例】

ケイシーのライフ・リーディングを受けた人は、約2500人にのぼるといわれています。さまざまな事例がありますが、今回はそのいくつかを紹介します。

ある生まれつき目の見えない大学教授がライフ・リーディングを受けたところ、紀元前1000年頃のペルシヤにおいて、赤く焼けた鎧で敵の目を潰す部族の一員だつたことが透視されました。この行為がカルマ



(因果)となり、今世で彼の視力を奪ったのかもしない、ということです。

法音寺の始祖・杉山辰子先生も、これに似たことを語られたことがあります。ある時期、杉山先生は視力を失われましたが、こうおっしゃいました。

「これは過去世、私が武士だった時代に、弓で人の目を射抜いたことがある。その因果によつて、私はある時期から目が見えなくなる。しかし、私は功德によつて、その因果を消滅させ、また見えるようになるから、心配にはおよびません」

また、ニューヨークで手のモデルとして活躍していきる女性がライフ・リーディングを受けたところ、彼女



は過去世において修道女であり、その時、人が嫌がる  
ような手を汚すような仕事を率先して行つていたことが  
わかりました。その善きカルマの結果として、彼女  
は美しい手を持ち、手のモデルとして成功をおさめて  
いたのだそうです。

ケイシーによると、ある一生で努力して修得したものは、決して無駄にはならないといいます。また幼少期から天才的な技量を發揮する人がいるのは、過去世の積み重ねによるものだというのです。

たとえば、モーツアルトです。なんと5歳の時にピアノ協奏曲を作曲したといいます。

19世紀の天才数学者ガウスは、2歳の時に父親が從業員の給与計算をしているのを見て、「お父さん、間ま



違つて いるよ」と指摘したと伝えられています。これらはそのよい例だと 思います。

また、こんな話もあります。アメリカ・ロサンゼルスに住む6歳の少年レイモンド君は、それまでピアノに触れたことがなかつたにもかかわらず、突然流麗なジャズのメロディーを弾き始めました。驚いた父親が「どうしたんだ?」と尋ねると、レイモンド君は「指が自然に動くんだ」と答えたそうです。それから、レイモンド君は一日五時間ピアノを弾き続けました。それが次第に個性的なジャズの演奏スタイルになつていったのです。ジャズに詳しい人がその演奏を聴いて、「これは1943年に39歳で亡くなつたファツツ・ウォーラーそのものだ」と言いました。こうして、「この子



はファツツ・ウォーラーの生まれ変わりなのでは」と  
言われ、アメリカ中の<sup>じゅう</sup>人気者<sup>にんきもの</sup>となつたのです。

ちなみに、ファツツ・ウォーラーが亡くなつたのは  
1943年。レイモンド君がピアノを弾き始めたのは  
1971年でした。レイモンド君の父親<sup>ちちおや</sup>はこの出来事<sup>できごと</sup>を本にまとめ、後にそれが映画化されました。

### 【ソウルメイトと魂のつながり】

ケイシーの話には、ほかにもさまざまな興味深い話<sup>きょうみぶかいはなし</sup>があります。その中の一つに「ソウルメイト」という概念<sup>がいねん</sup>があります。

ソウルメイトとは、魂の深いつながりを持つ伴侶<sup>はんりよ</sup>や仲間<sup>なかま</sup>のことを指します。つまり、魂同士に強い絆<sup>きずな</sup>があるということです。伴侶であれば俗に言う「赤い糸」



で結ばれているということです。中には、5人、10人、  
20人といった魂のグループがあり、ある時代に、そして次の時代にも、共に生まれ変わる人達がいるといいます。

こうした魂のグループは、カルマ（因果）の問題をともに解決する仲間であり、同じ目的を持つて生まれ、それぞれの役目を果たすために転生してくるのだそうです。

法華経を信じ実行する法友は、ソウルメイトの関係と言えるかもしれません。

### 【輪廻からの解脱と選択権】

ケイシーがライフ・リーディングを施した約2500人のうち、18人には大いなる存在から「自らが望ま



ない限り、もう地球上に生まれ変わる必要はない」という選択権が与えられていました。つまり、輪廻の輪から解脱している人々です。

ケイシーのライフ・リーディングの記録はすべて現在も残されており、その18人は「不要なる転生」という項目に分類されています。彼らには、以下の三つの共通点があるとされています。

一つ目は、特別な聖人ではなく、ごく普通の人であること。

今世で与えられた課題を真摯に受け止め、それに全身全霊で向き合っている人々です。困難から逃げず、誠実に問題を取り組む姿勢が特徴です。

二つ目は、職業を通して自己を磨き、社会に貢献していること。



職業意識や技術を高めることで自己成長を遂げ、さらにその働きによって周囲の人々を幸せにしています。医師、技術者、教育者など職業はさまざまですが、いずれも自らの仕事を通じて社会貢献をしているのです。三つ目は、奉仕の精神を持つていること。これが最も重要な共通点です。

法華経的に言えば、常に菩薩行を実践している人です。人の幸せのために尽くすことを第一に考え、利己的な欲望や興味をすべて捨て去っているのです。

これらのことが、地球への再生を必要としないとされた18人に共通していいたのです。

またケイシーは次のように語っています。

「18人は、地球上に戻らなくてもよい」と言われている。



しかし、『もう戻ることはない』とは言われていない。  
「地上の人々の力になりたいと願う者は、再び戻つて  
もよい』ということなのだ。最終的な選択権は本人に  
委ねられているのである」

お釈迦さまは、法華経法師品第十において次のように  
述べておられます。

「藥王、まさに知るべし、是の人は自ら清淨の業報を捨て  
て、我が滅度の後に於て、衆生を愍むが故に悪世に  
生れて広く此の経を演ぶるなり」

『法華三部經略義』卷三第十章・法師品（144頁）

（藥王菩薩よ、よく知りなさい。この人へ法華経を深く信じ、実践する人）は、清淨なる功德の身を捨てて、



末法の世に生きる人々を愍むが故に、ともに苦しみ、  
ともに悩みながら、多くの人々に法華経を弘めるため  
に、敢えてこの世に生まれてくるのだ)

日蓮聖人は「地涌の菩薩に非れば唱えがたき題目」  
とおっしゃっています。今、お題目の信仰をし、それ  
を弘める人は、ケイシーのライフ・リーディングの18  
人に勝るとも劣らない如来の使者であろうと思ひます。

